展する事をお祈り致します。

創立120周年を迎えて

浅野井　恭

明治の昔、郷里上田出身の篤学の士が集まって「上田郷友会」を創立し、毎月一回の例会と、その内容を紹介する「上田郷友会月報」の発行を決めてから、今年で120周年を迎えました。月報も1406号（今年の1月例会で。全期間に対する発行実績は98％）を数えました。忌わしい戦争時代と、国体も政治経済も根底から覆された歴史を考えると、私的な勉強会としての活動実績は稀有のもので本当に頭が下がります。

この長い歳月、上田郷友会を、あらゆる面で支えてきてくれました諸先輩の方々のご苦心・ご努力に、心から敬意と感謝の念を捧げるものであります。

昨今各種の勉強会が盛んに行われていますが、その殆ど全てが講師を招聘しての講義形式のもの、上田郷友会のように参加者が各自の意見を発表し、考え方を紹介する勉強会は少ないと思います。

上田郷友会の創立当時から、運営については「例会で演説せんとするものは幹事に届け出…」、月報についても「主として会員演説せるものを載す」と決められていました。その伝統は今も守られているのです。

現在の会員も、皆さん実に博覧強記、まさに多士済々というところで、例会では常に新しい知識を得た事に喜びと感動を覚えています。私も古希を迎えましたが、当会ではまだまだ若手に属し新参者。いつの例会でも先輩諸兄の博識と意気軒昂さに啓蒙されております。そして老人パワー（たいへん失礼ですが）に励まされております。

120年。「継続は力なり」といわれますが本当に歴史の重み、を感じます。先人の心意気に信州人気質の真骨頂を覚えます。

これからは、私たちの諸先輩から今に語り継がれた大切な遺産を、如何にして後世に伝えるか……ということでしょう。それは私たちに与えられた責務でもあります。

120周年お目出度とう

伊勢亀嘉子

上田郷友会の120周年記念、誠にお目出とうございます。

郷友会と私のご縁は詩吟の尺八伴奏の草分けでいらっしゃる田中栄童先生（享年100才）より幾たびかお誘い頂いたのです。お噂によると「長野の方は勉強家で頭が良い」と伺っておりました。江戸っ子の私などと思いましたが、既に叔父が入会して居りましたしお仲間入りさせて頂きました。昭57・58年（97・98回）の大会には女優の入江たか子さんもお見えでしたが女性は数人でした。私も70代は元気で大会の折など少しでも賑やかにと、下手なものを皆様にお目にかけました事など、思い出すと恥づかしい限りです。例会には勉強させて頂き感謝しております。私もいつのまにか年老いてお役にも立ちませんが、今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

歴史ある郷友会の一層のご発展を、お祈り致して居ります。

創立120周年慶賀

沓掛　元砥

郷友の親睦・奨学の為の本会が、創立120周年を迎えた事は、本当に慶賀す可き事であり、御同慶の至りであります。益々の発展充実を祈念致します。

創立120周年に憶う

小林　芳彦

郷友会へ初めて参加したのは、代表幹事が大東信用金庫の矢崎理事長さんの時であった。矢崎さんとは面識があったし会の雰囲気が和やかであったので好感の持てた集いであった。

その後幾度かお誘いを受けたが、参加出来ず結果として不熱心な会員であった。平成15年後半から時折参加して、現在はようやく常連の仲間になることができた。

郷友会の創立は明治18年であるが、この年明治維新の後始末が終わり、近代国家への骨格が整って、初代総理大臣に伊藤博文が就任して、欧米に追い付き追い越せのスタートとなった。

当時、青春の真っ盛りであった。諸先輩方は、漢学にも優れておられたので、江戸末期の儒学者廣瀬淡窓の詠んだ漢詩

休道他郷多苦辛　同胞有友自相親
柴扉暁出霜如雪　君汲川流我拾薪

故郷を出て他郷で勉学に励むのは苦労が多いと言うな。そこに親兄弟はいないが、友達がいて親しく付き合っているではないか。早暁柴の戸を開けて外に出てみると霜が雪のように真っ白だ。朝飯の支度のため君は川に行き水を汲め、私は山に行き薪を拾って来よう。（神渡良平・訳参考）

を参考にして相共に扶けあって、勉学や仕事に励もうとしての創立であったと思うし、また

その上の真田の城に思いはせ
育らし故郷は忘れえぬかな

の心情も創立を促したと思う。

百余り二十の年をけみしても
初心を継ぎて今も集えり

一般にこうした会は年月の経過と共にいつしか消滅してしまうのが通例であるが、120年も続いているのは希有のことと思う。これは歴代の代表幹事・幹事の皆さんが、初代代表幹事・幹事の諸先輩の心を心として、灯を燃やし続けることに腐心下さっているからである。

特に、滝澤代表幹事には会場の提供を始め物心両面に亘って支えて戴き、また幹事の皆さんの尽力に改めて感謝申し上げます。

集いては各も各もが学びしを
話題に供えし知徳修めり

そのような集いで在りたいし、

それが創立時の初心だと思う。

創立120周年を迎えて

佐藤　一郎

私は上田郷友会の起源及び沿革を見て、明治11年、「上田医学生会」が生まれ、明治17年、有志総会で上田郷友会が誕生したとあります。このように、明治から大正、昭和そして平成と長い歴史を経ている事は、他に例はない様に思われます。この伝統ある上田郷友会東京例会員の1人として誇りに思います。毎月の会では、政治、経済、商業工業等、各分野の話が聞けて参考になるものは、手帳にメモを書いて少しでも知識になればと思っています。この東京の上田郷友会に、会員になって確しか7年か8年でありますが、この間で、参考になったものが自然に行動されたりして、あとになってそうか上田（東京）郷友会での話であったのかと認めたりする事がよくありました。これからも、参考になるものは手帳にメモしていくつもりです。上田郷友会のますますの栄光と、又、郷友会の皆様と共に語り合えることを望み、滝澤代表幹事のリーダーシップに期待致したいと思います。

改めて創立120周年を迎えてお祝いの言葉を申し上げます。

創立120周年を迎えて

松本　勝身

「郷友信濃・滝澤勝人氏追悼号」（平成元年6月25日第494号）「父の死　滝澤尚久記」のなかで「――気楽な良い生活の日々――父の人徳――祖父、父と2代にわたってお世話になった上田郷友会――」とあります。明治18年月報第1号を発刊して以来120年、歴史の中の1頁でありますが、私にはさまざまな思いが去来します。郷友会のお手伝いをさせて頂いたこと、また、滝澤尚久様の祖父、七郎先生との出会いがあります。それは昭和35年ですが、先生の伝を頼り大東信金に入ったわけです。七郎先生は元衆議院議員で大東信金の理事長でもあり、当時墨田区本所界隈では「タキシチ」の愛称で、人望が厚く大変な人気がありました。我々新入職員にも気軽に声を掛けられ、「おい！どうだ」とか「まあ頼むでよ」とか信州弁まる出しで飾り気のないお人柄には敬服しておりました。また勝人氏の奥様の寿々様には、御自宅へたびたび伺うことがあり、その都度、心からのおもてなしを戴き、本当にお世話になったものです。平成10年3月に89才で永眠されたとお聞きし、感慨無量の念でおりました。そして驚いたことに、滝澤家代々のお骨が信州別所の安楽寺に納められているということを全く存じ上げませんでした。

私は別所の近くの旧西塩田村の生まれで、別所へはいつも学校で行っていましたし、安楽寺は、小さい頃からお詣りに行っていました。安楽寺は申すまでもなく国宝八角三重塔を有する鎌倉時代のもので、華麗にして気品をそなえた日本の代表的建築物の一つとして、全国的にも有名な寺でもあり、彼の地に、七郎氏、勝人氏、寿々氏が眠っておられると思うと、今更ながら、上田郷友会とのつながりを深く感じさせられます。

創立120周年記念大会について思う

和田　龍三

上田郷友会が本年2月で120周年の年を迎え、まさに日本一の歴史を持つ上田郷友会と言えるでしょう。しかも未だに毎月例会を開きその内容を郷友会月報として発行しており当月で第415号となりました。

上田郷友会月報の発行に当たり書記を担当した方々のご苦労は大変なこととご推察申し上げます。出席会員の発言内容を詳細に記録してその原稿を明徳印刷出版社に送付又は持参し校正して発行する作業は毎月のことであり、本当にご苦労さまと頭の下がる思いです。

例会の内容を若干申し上げますと、毎年12月例大会、そして毎月の例会では出席会員の勉強されたことの発表は歴史、経済と政治、金融問題そしてお天気情報等、特に年輩者が多い関係で健康情報から年金問題には関心が高いです。また大東亜戦争時に現役の方も元気でおられ当時の話題がよく出ます。その上、日頃の生活上の諸問題等を書記の方がよく纏めて下さいます。

私がこの上田郷友会に関係するようになったのは我が高等学校の大先輩の滝澤七郎氏の理事長であった大東信用金庫の大ホールで毎月の例会が開催されてからであります。昭和60年10月、100周年記念大会が東京上野公園内上野精養軒で開催される等々受付を担当した記録がありますので、20年以上となります。昭和63年1月当会の幹事に推薦されて以来事務局を担当しており私が一番の若年でありましたが、最近となって若手会員も集まって下さり、例会出席者も常に20名以上と盛会裡に推移しておりますことは、事務局にとって喜びであります。

以上、思いつくままの原稿ですが、会員皆様のご健勝をご祈念申し上げて終わりといたします。

上田郷友会の歴史を考える

田原　敬

137年前に江戸時代が終わり、それから18年が経過して上田郷友会が誕生した。

しかし、その頃のことを知っている人は今は一人も居ない。

19世紀以前の世界では交通手段・方法は格段の違いがあり、東洋も西洋も同じであった。

例えばフランスの場合、西ヨーロッパの交通の一大中枢地点パリはもっとも文明開化していた。

それでも東京から京都へ行く

より、パリからリヨンのほうが平坦で距離も近いのに、馬車で行くのに3日3晩もかかっていた。

1860年頃の江戸時代、九州の島津侯は江戸への参勤には、50日を要した。

19世紀の30年代から先進国は鉄道の敷設が始まるが、明治維新は1868年、日本人の多くはアメリカのペリー提督の黒船来襲で開国をした恩人と思っているが、カリフォルニアを制し、更にアメリカは極東の大陸でイギリス・清国戦争を横目でみつつ、日本列島に目をつけていた。そのことを英国の史家クリーシーは、アメリカはイギリス・清国戦争以上の活動を日本に向けていると、予言していた。その通り、ペリーは非常に強硬な態度を固めていた。

然し、リンカーン大統領が暗殺され、民主党のジョンソンになり、ペリーの侵略主義も変えざるを得ず、彼の侵略の政策が幸いにして成功しなかったのが真相だ。

オランダ・イギリス・アメリカなどの他に、ロシアも17世紀の初めから、絶え間なくわが国を狙っていて、警戒の心を弛めることはできなかった。

カムチャッカから千島の侵略はピョートル大帝の時からで、18世紀の初年である。文久元年にはロシア艦は対馬を占領し、明治8年には千島・樺太を交換し、明治20年代の初年、日本は保守反動的勢力が澎湃として起こり、ロシアは常に我が国にとって恐ろしき相手で、其の政略はもっとも露骨で、ロシアは果たして信頼できる国なのか、幕末、橋本佐内は日露同盟論、維新の初め副島種臣外相の日露親近策等々の同盟の策は遂に行われず、明治37、8年日露戦争が起こった。

発足当時の郷友会の諸先輩は、こういう困難な時代からスタートし、明治・大正・昭和へと後輩により引き継がれて、平成の今日でも、アメリカ・イギリス等の圧力的武力を背景にしたイラク戦争に手を焼いている。

7月のサミットの中のイギリスのロンドンで同時テロ事件が起こった。エジプトでもテロが発生し、そんな時代に我々は生きている。

奇しくも、7月12日の朝刊に「2・26事件で処刑された将校ら17名の遺書が発見」新聞の大見出しが報道された。69年前の事件である。昭和の時代も苦難が続いた、平成にあって、新勢力隣国中国の今後の動向は、地球環境、民族問題、宗教対立などなど問題は何時の世でも起こる。

先人の方々の様々な努力が現、郷友会会員に使命感として受け継がれ、より充実することを祈る。

この文を書いている最中でもスペースシャトル「ディスカバリー」で船外補修をしている日本人宇宙飛行士とロビンソン飛行士の活動が毎日のように世界にテレビ放送され、世界中の人々が見入っている。世界の情勢は変わりつつある。

その意味で120周年記念の一層の意義を噛み締める思いでいる。

かけこみ愚考

中村　禮三

2月にチャリンコで転倒。左足大腿骨骨折し、久しぶりにリハビリを兼ねて郷友会に出席のため電車に乗る。車内に一歩踏み入れると後ろからベルト附近を引っぱる者がいる。誰れかと思ってふりむくと娘である。おっかけ駅員の声で「かけこみ乗車は危険です。おやめ下さい」とのアナウンス。こっちは人工骨加工で走れないから俺じゃないと思い乍ら「かけこみ」という言葉が妙に耳座に残る。「かけこみ」といえばお寺で有名なのがある。鎌倉の松ヶ岡にある東慶寺である。

この寺は北条時宗の妻、覚山尼が男性に虐待されても別れられない女性を助けるため弘安8年、時の朝廷に願い出て官の力も及ばない禅宗の尼寺を創建した。鎌倉の松ヶ岡にあったので松ヶ岡といえば東慶寺の異名で通っていた。それ以前にも江戸板橋岩の坂というところに「縁切り榎」という木があり、この木の幹の皮を酒または水で男性に飲ますと縁が切れるという俗信があった。これはどうも眉唾もので、これで効かないと江戸から13里離れる松ヶ岡行きとなるのである。運よく「かけこめ」てここで3年間修行すれば男性から晴れて別れることが出来た。昔、男性は自由に離縁状が書けたが女性はそんなわけにはいかなかった。

故に女性にとっては東慶寺の存在は大いに意義があった。

こんな句がある。

●榎でも取れない去状松でとり

●ここにけつかるかと見てゆく

松ヶ岡

女性に逃げられた男性の舌打ちが聞こえるようである。

江戸から13里、鎌倉は遠い。行く先々の宿場には逃げる女性を捕える者、松ヶ岡への手引をする者、何れも小判の力であった。東慶寺のかけこみは江戸末期まで続いたそうだが、簡単ではなかったという。現代の世相は逆に女性から三下り半を突きつけられる男性が多くなって男性にも東慶寺が必要の時代がくるかも知れない。若しも、そんな時がきたら鎌倉に縁のある信州の別所辺りは如何。元来、ぐうたらな男性には温泉に浸り乍らの修行もまた味なものがあろう。

呵々。

一生懸命

西沢佳三郎

7月の暑い最中溜りに溜った書籍を整理していましたら、奇しくも尊敬する大先輩滝澤七郎先生の著書『日暮硯』『藍綬褒章』『闘病随録』『追憶』等に巡り会えました。

余りの懐しさに一気に読破しました。先生直筆の入社試験案内と採用通知書も一緒に出てき

ました。これは私の生涯忘れ得ぬ思い出と共に先生に対する感謝の念で一杯です。

有力取引先に先生揮毫の「一生懸命」の四文字を額にし、配っておりました。心暖まる四文字を滝澤七郎の落款はお客様の心を引き付けた様です。居間の正面に飾られて大切にして頂き私としても大変嬉しく思いました。

これは昭和23年天皇陛下に拝謁された時陛下の一生懸命の御言葉に感銘を受けられたそうです。この四文字は時代の変遷に伴い産業界の幾多の変動や震災戦災をも不撓不屈の精神で克服され、国家社会発展に終生を懸けられた先生ご自身の生き方であったかと思います。

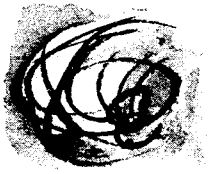
私も現役時代は一生懸命を座右の銘としてきました。先日スポーツ記事に先場所に続き7日目にして単独首位に立った朝青龍はあまり意識せず一生懸命相撲を取るだけと言っていました。

郷友会の統率、政治や事業での活躍も人と心の繋りを大事にされ国を愛し師を愛し人を愛したことが庶民から敬慕される礎となったと思います。

私も仕事上で一大転機となる思い出があります。新設店舗で新規開拓が振わず悩んでいました。先生の選挙の組織化に目を付け顧客開拓についてお尋ねしたことがあります。担当地域の町会各種業界の会長に会いなさい、どこの会にも長野県人が活躍しておるので頼んでみなさい。後は貴方の努力次第だと言われました。これが後に店長になってから業績拡大に繋ったことは言う迄もありません。本店長時代に預金100億円店舗を達成した矢崎理事長の粋な計らいで私の誕生日に総代会が開催され、役員に選出して頂きました。

郷友会も120周年を迎えました。七郎先生が大正11年に幹事を引き受けられ83年の長きに渡り滝澤家に会を支えて頂き、心より感謝申し上げます。これからは若い会員の募集に力を入れ会が永遠に継続できる様努力致す所存です。

※「会員の声」は会報1415―(2)号につづく。



カット・土屋哲夫

上田郷友会120周年の歩み

創立年	西暦年	日本歴年	上田郷友会の記事
前7年	1878	明治11年	上田医学生会発足
前5年	1880	明治13年	上田医学生会と上田学友会と会の名称を変更
前3年	1882	明治15年	上田郷友会、上田学生親睦会等と名称を変更
前2年	1883	明治16年	最終的に上田郷友会と名称変更
前1年	1884	明治17年	12月上田郷友会規則制定
0年	1885	明治18年	1月4日役員選任
			2月1日第1回月例会を福田屋で開催、以後月例会は福田屋で開催するようになる
			2月1日月例会の場で月報第1号を発行
24年	1909	明治42年	12月5日創立25周年記念大会を宮下釟太郎氏の勤め先の監獄協会で開催
34年	1919	大正7年	千曲寮が完成、この時から月例会は千曲寮で開くようになった
35年	1920	大正9年	11月7日千曲寮第1回記念祭開催、12月5日創立36周年記念大会を麹町の富士見楼で開催、これ以降上田郷友会は毎年年次大会を行うようになった
37年	1922	大正11年	11月滝澤七郎氏幹事となる
38年	1923	大正12年	関東大震災のため9、10、11月の3ヶ月間月報を休刊
40年	1925	大正14年	1月滝澤七郎氏が世界1周の旅でロサンゼルスに立ち寄ったのを機会に北米支部が誕生
			代表浦田恵佐次郎氏、2月北米支部で第1回月例会を開催した。これ以降北米支部でも月例会を毎月開催しその議事録を上田郷友会本部の方に毎月送ってきた
41年	1926	大正15年	月例会を東京丸の内レインボーで開催、以後レインボーは連峰会館と改名したが、連峰会館が昭和19年閉鎖するまで月列会は連峰会館で開催した
43年	1928	昭和3年	9月月報第500回記念特集号を発行

50年	1935	昭和10年	5月月報より須田町印刷所で印刷　昭和23年2月に須田町印刷は明徳印刷と社名を変えたが戦前戦後の混乱期（昭和19年4月～23年2月）を除いて現在まで月報はこの印刷所で印刷している
58年	1943	昭和18年	9月25日宮下翁の満80才祝賀号発行
59年	1944	昭和19年	3月25日号を以て月報の発行を一時中断、滝澤七郎氏を代表幹事に選任
			大塚稔氏の好意により8月より月報の発行再開（大塚稔氏は1年間無料にて寄付）
60年	1945	昭和20年	大塚稔氏の好意も20年3月10日の大空襲で3月号から月報の発行不可能になる
			12月2日戦後第1回の月例会東京丸の内常磐屋にて開催
61年	1946	昭和21年	1月より月報の発行再開、3月号より上田図書館に正式保存再開
			2月9日宮下釟太郎翁の追悼式を上田図書館で執行
62年	1947	昭和22年	2月より月例会を神田小川町全国鋳物協議会で聞くようになった
			3月24日上田市新町滝澤七郎方にて会合を開いたのが嚆矢で新たに郷里部会が発足
63年	1948	昭和23年	6月号より月報の題字を「上田郷友会月報」から「郷友信濃」と変えることにより第3種郵便を申請していたが9月に認可。これにより月報の郵送料1通4円から50銭となる
			7月31日昭和16年より途絶えていた北米支部より慰問の贈り物が届いた（贈主　丸山音五郎氏）
70年	1955	昭和30年	10月29日70周年郷里部大会を上田城趾公園内富貴にて開催（参加者171名）
			12月3日満70周年大会を両国大金にて開催（参加者105名）
78年	1963	昭和38年	1月12日の月例会で昨日代表幹事滝澤七郎氏逝去の報告が有り、その後の代表幹事は滝澤勝人氏に月報の発送は従来通り滝澤寿々子氏に、会計事務は中沢信連氏に、月報資料収集は新井守太郎氏と田中芳雄氏に依頼
80年	1965	昭和40年	12月4日創立80周年大会を両国大金にて開催（参加者65名）
90年	1975	昭和50年	6月より清水利雄氏に代わり丸山寿氏が郷里部会の代表を努める
			12月6日創立90周年大会を私学会館で開催（参加者41名）
97年	1982	昭和57年	6月5日東京・上田の合同部会を上田図書館で開催（東京から出席者15名、上田からの出席者44名）
100年	1985	昭和60年	12月7日創立100周年大会を上野精養軒で開催（参加者87名）
104年	1989	平成1年	4月24日代表幹事滝澤勝人氏逝去
			5月9日矢崎貞次氏を代表幹事に選出
107年	1992	平成4年	12月より月報の郵送料が第3種郵便でなくなり高くなった為、会費も千円から2千円に値上げする
110年	1995	平成7年	1月14日郷里部会の代表丸山寿氏が勇退し佐藤毅氏が部会長となる
			創立110周年記念大会を東京は大東信用金庫で10月7日に、郷里部会は上田市内の「ささや」で10月14日に開催
111年	1996	平成8年	1月15日代表幹事矢崎貞次氏逝去
			3月6日滝澤尚久氏を代表幹事に選出
			第3種郵便で郵送する為に48年間使って来た「郷友信濃」月報の題字を3月号より「上田郷友会月報」に戻す
114年	1999	平成11年	1月より事務局の所在地を墨田区江東橋1―15―5の滝沢工業㈱内に移転
			大東信用金庫は合併により平成11年2月より東京東信用金庫（ひがしん）となった為、月例会は翌年の9月まで両国の東京東信用金庫の会議室で開催
115年	2000	平成12年	10月の月例会より江東橋の滝沢工業㈱の本社ビルで月例会を開催するようになった
			この年の12月の例大会より年次大会は錦糸町駅前のロッテ会館で開催
120年	2005	平成17年	10月8日創立120周年記念大会を錦糸町駅前のロッテ会館で開催